

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	19	学校名	揖斐高等学校
------	----	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	1 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する 2 知・徳・体の調和のとれた人格を養う 3 地域社会に貢献できる人間を育てる	
	どんな生徒を育てたいか【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒
	3つの方針 (スクールポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施 規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養
	生徒をどう育てるか【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にしている生徒 自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒
	どんな生徒を待っているか【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にしている生徒 自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒

学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒数の減少を見据えた対応 ②学校環境の整備 ③基礎学力の向上 ④人間関係形成能力の向上 ⑤持続可能な教育活動の展開
----------	---

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> 1. 魅力ある学校づくりの推進 2. 学習環境の整備 3. 勤務環境の改善
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 1. 確かな学力の育成 2. 授業改善の推進
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 1. 心の教育の充実 2. 豊かな人間性の育成
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 1. 地域社会の担い手の育成 2. キャリア教育の推進

年度目標				年度末評価(自己評価)				
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け		達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学校経営	1. 本校の特性を発信するための中学校への啓発活動の見直し 【例】『学校案内』の作成及び配布方法の検討	20	施策Ⅳ-20	志願者数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内の冊子の作成に加え、本校の最新の教育活動を紹介するチラシを作成し、近隣のすべての中学生に配付する計画をしたが、予算等の関係で実現できなかった。 ・生活デザイン科で使用する特別教室のうち1部屋にエアコンを新規に設置した。 ・職員室及び進路指導室のエアコンが老朽化のため故障したが、迅速に更新した。 ・時間外勤務時間(月平均・一人あたり)19時間14分(昨年度20時間53分) ・時間外勤務時間月4.5時間超えの職員数(月平均)3.6人(昨年度3.8人) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○夏の高校見学会で、新たに中学生の保護者と校長の対談を企画し保護者から高評価を得た。 ▲今年度実現できなかった中学生に配付するチラシを次年度は配付できるよう予算を確保する。 ○生徒の学習環境や教職員の労働環境を若干ではあるが改善できた。 ▲エアコンが未設置の特別教室が多数あるため、引き続き取り組んでいく。 ○会議の合理化など業務の見直しを進めたことにより、昨年度より時間外勤務時間が減少した。 ▲更なる多忙化解消のため、前例踏襲を見直し行事等の精選等に引き続き取り組んでいく。 	B
	2. 生徒の体調面での健康と安全を確保するための空調設備の整備 【例】生活デザイン科の使用する専門教室のエアコン設置	20	施策Ⅳ-20	エアコン設置の状況				
	3. 教職員の誰もが働きがいを実感できる多忙化解消やハラスメント対策の取組の推進	27	施策Ⅳ-27	時間外勤務の検証 「エントリーシート」の分析				
学習指導	1. 中学校段階までにおける基礎・基本に係る学び直しの保障 【例】『揖斐Basic』の活用	8	施策Ⅱ-8	「揖斐Basic」の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の生徒を対象に年5回(6月・8月・10月・11月・2月)の「揖斐Basicテスト」を実施した。 ・生徒は全体的に一生懸命取り組んでおり、苦手分野を克服しようという意識も高い。 ・生徒へ授業に関するアンケートを年2回(7月・11月)実施した。 ・アンケート項目の「授業に積極的に参加した」と強く思う生徒の割合が60.3%(7月)から63.3%(11月)と上昇した。「授業で教材(パソコン等)が効果的であった」と強く思う生徒が僅かではあるが上昇したので、生徒の取組姿勢はもちろん教員側も教材研究及び授業改善に努めていると考えられる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○後半になるにつれて内容の難易度が上がるが、巡回した様子から生徒は前向きに取り組んでいる。 ▲理解度において個人差が生じないように、個別指導充実を図っていく。 ○授業アンケートの結果から、生徒の各授業内容への関心度や学習への意欲は上昇傾向にあり、ICT活用についてはほぼ定着してきている。 ▲教員側の更なるスキルアップを目指して、校内での教員研修を充実させる。 	B
	2. 「主体的・対話的で深い学び」の実現につながるICTの適切な利活用	9	施策Ⅱ-9	「授業アンケート」の検証				
生徒指導	1. コミュニケーション能力や自己表現力を育成する取組 【例】「演劇ワークショップ」の開催	1	施策Ⅰ-1	「演劇ワークショップ」の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・5月から10月にかけて3回実施した。年度当初は新しい環境に馴染めず消極的な生徒もいたが、徐々に活動の見通しが持て積極的に活動する生徒が増えた。また、大勢の中で自分を表現することを苦手としている生徒が多いが、自分で判断し行動する姿がみられるようになった。 ・「心のアンケート」や「いじめに関するアンケート」及び教育相談週間を活用して、生徒が困っていることや考えていることを教員が把握するとともに、研修や「相談だより」などでの呼びかけにより、生徒自ら相談する力を育むことで、スクールカウンセラーやスクール相談員との面談に繋ぎ、早期に対処することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○3回目のワークショップの頃には、自分の考えを伝えたり、クラスの活動にも積極的に取り組む生徒が増え、クラスだけでなく学年全体のまとまりがでてきた。 ▲高校生の大半は、自分の考えを伝えるコミュニケーションツールとしてスマートホンを使用しているが、ワークショップで経験した言葉や表情、動作の大切さを今後の学校生活に生かしていく。 ○各種アンケートの実施、担任や教育相談担当を中心とした早期対応により、大きな生徒間のトラブルはなかった。 ▲保護者アンケート結果から、いじめ・教育相談の取組について「わからない」の回答が多かった。本校の取組が確実に伝わるよう方法を検討していく。 	B
	2. ルールやマナー、モラルを遵守する意識の向上を図る取組 【例】「情報モラル教室」、「交通安全教室」の開催	19	施策Ⅲ-19	各種アンケートの分析				
進路指導	1. 学びと地域貢献とをつなぐ学校外での実習や体験の充実 【例】「デュアル実習」の実施、「地域医療講座」への参加	13	施策Ⅱ-13	就職状況の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・「デュアル実習」では、11名の生徒が職場で貴重な体験を得ることができた。また、学習成果発表会では実習先企業の方々に前に見事な発表を披露できた。 ・生徒の第一希望を尊重した進路指導を行うとともに、企業と交渉することで採用枠増につなげ内定に結び付いた。 ・進路ガイダンスは2・3年生ともに2回実施した。 ・先輩と語る会では、3年生は下級生に向けて自分の成功体験を堂々と発表でき、自己肯定感の高揚につながった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○デュアル実習では、内定につながった生徒が3名いた。 ▲今年度から、就職希望者に対して求人情報を提供するために「ハンディー進路指導室」というウェブサイトを導入している。このウェブサイトを効率よく効果的に活用することを通じて、就職希望者の意向に沿った進路選択を図る研究を推し進める。 ○進路ガイダンスでは、各生徒は16ブースから4ブースを選択し各20分、担当者から直接話を聞くことができた。生徒の進路意識の喚起や進路選択につながる有意義なものであった。 ○「先輩と語る会」では、聞き手側の下級生も1年後、2年後の自分の姿と重ね真剣に耳を傾けていた。 	B
	2. 生徒一人ひとりのニーズ等に基づいた進学・就職支援の推進 【例】「進路ガイダンス」の充実	13	施策Ⅱ-13	各種取組の分析				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月20日

学校関係者評価

実施日：令和7年1月28日

【学校経営】

・生徒の学習環境及び教職員の職場環境の整備、中学校への啓発活動等を推進するため、予算確保のための協議を進めつつ迅速に着手していく。

【学習指導】

・1年生は「揖斐Basic」による学び直しを継続して取り組み、高校での学びを深めるための基礎学力を身に付けさせる。各教科・科目においては教員研修の充実により、授業規律を徹底するとともにICTの活用やグループ学習の機会を設けるなど、生徒が主体的に取り組める授業につながる一層の工夫を図る。

【生徒指導】

・「演劇ワークショップ」で学んだコミュニケーション力・イマジネーション力・表現力の大切さを、授業、特別活動、学校行事などあらゆる場面において、生徒がよりよい人間関係の構築ができるよう支援する。

【進路指導】

・「デュアル実習」をはじめとした授業やボランティア等において地域との連携・交流を一層深め、将来生徒が地域社会を形成する創り手や担い手となるようキャリア教育を充実させる。

・「演劇ワークショップ」で学んだ自己表現力やプレゼンテーション力は、社会に出ても必要な能力である。教育活動の中でこのような能力を身に付けさせてほしい。

・学習成果発表会を参観したが、デュアル系列では生徒全員がコミュニケーションの大切さを学んだと発表していた。実習先の企業で異年齢の人と言語・非言語のコミュニケーションを経験したからこそ感じ取ることができたのではないかと感じた。

・学習成果発表会を見て大変感動した。毎年発表のレベルが上がっている。今後、揖斐郡内の中学校の進路指導主事や中学3年生に発表を見てもらうことを検討してはどうか。

・保護者としての意見となるが、子どもが晩ご飯を家族のために作ってくれるようになるなど、高校に入学してから優しさが育っている。授業参観では、本校の教職員が生徒に声をかけている場面が多く見られ、温かく見守ってくれていると感じた。